監査報告書

令和7年5月23日

社会福祉法人 木曾社会福祉事業協会
理事長 田上 昭彦 殿

監事 大家 親
監事 織田 晴久
(印 略)

私たち監事は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの令和6年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について次の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び換算の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

(1) 理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。

(2) 事業報告に記載されている理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他社会福祉法人の業務の適正を確保するために必要なものとして社会福祉法施行規則（昭和26年6月21日厚生省令第28号）第2条の16各号に掲げる体制の整備に関する理事会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部管理体制）について、理事及び職員等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。

以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその付属明細書、計算書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2. 監事意見

①事業報告書等の監査結果

- 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

② 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の状況の増減をすべての重要な点において適切に示しているものと認めます。

③ その他監査付帯事項

1. 実施日時 令和7年5月23日（金） 9時30分から16時00分まで
2. 実施場所 木曾寮 会議室
3. 立会人 理事長 田上昭彦
理事 宮木昭彦 上坂ひろみ 加藤春彦
施設長 和木 薫 村上弘一
事務局員 鈴木正信

4. 実施監査内容

(1) 監査項目

- ① 各事業の現状と課題について
- ② 財務諸表の整合性について
- ③ 会計事務に係る統括会計責任者・会計責任者・出納職員の確認について
- ④ 法人の行員・預金通帳等・銀行印の管理状況について
- ⑤ 小口現金・預金通帳・定期預金等の現物・残高の確認について
- ⑥ 未収金・仮払金・未払い均等の残高および内容確認について
- ⑦ 棚卸資産の内容確認について
- ⑧ 退職給付引当金の引当金について
- ⑨ 固定資産（基本財産とその他の固定資産）の管理について

(2) 監査項目に対しての指摘

なし

(3) 各事業の状況と課題について

◆総評

令和6年度からは児童・障がいに加え、高齢者福祉の運営も入り、予算規模も収入総額が10億円を超えより一層木曾地域の福祉の中心として取り組まれていることが確認できました。全職員の多大なるご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。

就労人口の減少などで人員確保が難しい中、郡外の学生を中心にPRを活発に実施し若い人材を確保するよう努力されている状況が確認できた。その上で、職員が不足し、苦慮されている状況がうかがえる。中途採用とともに、未来の人員確保のため地元の中学校、高校にもPRするなど、新たな取り組みにも期待したい。また、雇用してからもすぐ退職しないような職場環境の改善も同時に期待したい。

月例開催の法人代表者会議をはじめ、様々なグループで事業内容の異なる職員が課題解決されている状況が確認できた。また、グループウェアで情報共有をし、職員が情報を得ることができるシステムを活用している状況も確認できた。今後は上記の会議やシステムをより活用し、各施設が何に困っているかをしっかり集

め、迅速な対応と課題解決に取り組んでいただききたい。

特に施設系の事業所では利用者の健康に配慮し、食事の形態や調理方法を工夫し提供している状況が確認できた。また、職員の負担も考慮し完調品を一部取り入れるなど工夫もみられた。今後はバランスも考慮しながら、地域の食材も取り入れて、より一層利用者が楽しめる配慮も期待したい。

長年利用した施設の補修・修繕など維持費用が掛かる状況が確認できた。引き続き施設改修工事、補助金が受けられるものに関しては補助金制度を活用するようにしていただきたい。同時に、シルバー人材センターやボランティアなども有効活用し維持管理に努めていただきたい。

まとめとして、大規模社会福祉法人として運営をされていますが、今後5年先、10年先を見据えて健全な運営ができるよう、木曾地域のためにより一層ご尽力願いたい。

◆決算全体

令和6年度(令和5年度)の決算においては、事業活動収入が10億9034万6140円(8億3612万4419円)に対して、事業活動支出が10億1952万4318円(7億9618万6694円)となり、収支差額が7082万1822円(3993万7725円)となっている。また、当期資金収支差額の合計は3546万4430円(2006万8301円)となり、前期末支払資金残高と合わせて令和6年度の当期末支払資金残高は3億2044万6057円(2億8498万1627円)となっている。

令和6年度の基本財産は5億2973万5789円(5億6530万9644円)となり、昨年度から3557万3855円減少しているが、基本的には減価償却による減少である。固定資産全体で見ると8億9251万8566円であり、新たに固定資産に上げたとしては上松荘の高圧受変電設備改修、車いす乗降可能な公用車、グループホームの改修等、661万1438円支出している。補助金についても適切に使用されており、特に懸念すべきことはない。

積立資産についてはひのきちゃんハウスの積立資産が運営のため530万円の取崩があるが、施設整備や備品購入、人件費積立等全体では計3384万1972円積立ができています。その他財務指標についても問題なく、法人全体での事業運営は現時点では安定しているといえる。

令和6年度においても税理士に適切な指導の下、健全な事業運営並びに財政面での透明性の確保も図れている。

◆木曾ねざめ学園

児童養護施設としての役割が徐々に変化していく中で、木曾地域の中での役割を認識し、計画的に運営できていることが確認できた。

定員は変わらないものの、一時保護や町村からのショートステイの利用が過去最高となっている。また各職員が必要な会議等積極的に参加し、地域のニーズに対応するため取り組んでいることも確認できた。

児童の行事もユニットごとに多岐にわたる支援や、地域も交えた納涼祭など、施

設だけ孤立することのない取り組みが、ボランティアや寄付からもうかがえる。また、退所した児童のアフターケアも、良好な関係が築けていることが確認できた。

県の指導監査や外部機関・意見箱からも大きな指摘事項は無いが、職員が長く働ける職場環境を常に検討し、職員一丸となって課題解決に取り組んでいただきたい。

◆上松荘

施設内の大きなコロナ感染症に数回対応し、5類に引き下げられても変わらず苦勞されている状況が確認できた。その中でも工夫や職員の貢献で重大な症状にならずに済んだ事に感謝します。利用者の外出も徐々に増え、個々の要望に合わせた行事ができていくことが確認できた。

健康管理も、高齢化や障がい特性の強い利用者が増えた状況でも、歯科受診や通院等適切に対応できていることが確認できた。

職員の配置も最低限の状況で、必要な研修や委員会など開催できている。情報共有も工夫されているが、引き続き検討してより良い体制づくりに努めていただきたい。

◆グループホーム麦の穂・りんくきそ

建物の老朽化等により、1棟を廃止しているが利用変更等で適切に対応できていることが確認できた。また利用者の日中生活の場の利用も、本人の希望と計画に基づき選択できている。

◆ともに

職員同士で連携し、木曾郡内で多くの方の個々の状況に合わせ、しっかり相談・支援できていることが確認できた。相談の受付方法も来所や電話だけでなく、電子メールも有効活用し本人の状態に合わせた支援ができている。

7年度から基幹センターの役割を担うため今年度中に体制整備と準備を行ってきたが、引き続き専門性を活かした支援をお願いしたい。

◆すてっぷ

今年度から受託業務を主軸に調理給食業務を拡大したが、職員配置等を含め不安定な状態が続いたことが確認できた。新調理方式と異なる事業所への提供でいくつか課題が見られたが、徐々に立て直しが図れたことが確認できている。

ただ、就労 A 型事業所本来の目的である利用者の支援が十分にできなかった課題も上がっており、職員配置や体制整備など引き続き検討して、より良い事業所を目指して努力していただきたい。

◆こまくさワークセンター

利用者の増や単価が改正された影響で安定した収入を確保できていることが確認できた。利用者への工賃や賞与も前年度同様支給できている。

就労事業も多岐にわたることから利用者によって仕事量に差ができてしまう部分も見受けられるが、個々の状況に合わせて支援されているため、継続して取り組んでいただきたい。

◆木曾こどもセンター

放課後等デイサービスの利用が増え、収益も安定している。今年度は重症心身障がい児も継続支援し、地域の要望に応えられる事業所として運営できていることが確認できた。

職員の負担も増えているが、法人内で協力し合い引き続き取り組んでいただきたい。

◆ひのきちゃんハウス・ひのきちゃんハウス日中一時

利用者の減少による収入減により、今年度で廃止となったが、今まで利用していた方が困らないよう最大限の努力と配慮で、次の居場所を確保できたことが確認できた。

日中一時事業は引き続き運営するが、人員配置とサービス提供にいくつか課題が見える。地域ニーズとバランスを見ながら、今後の運営を検討していただきたい。

◆木曾寮（養護老人ホーム・訪問介護・居宅支援事業所）

指定管理初年度、また、法人にとって初めての高齢者福祉事業という部分で苦労がうかがえた。そんな中職員が一致協力して、今まで通りのサービスが提供できていることが確認できた。

資金繰りも初年度で不明な部分も多く、予算通りとならない部分も見受けられたが、試行錯誤をしながら徐々に解消できている。

現状では訪問介護事業から 1,000 万円以上を繰り入れているが、今後は養護単体で運営ができる体制の確保に取り組むとともに、更なるサービスの向上を目指していただきたい。

以上。